

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	林亮輔ゼミ	チーム名	カルビ
タイトル	猫の殺処分数を減少させるには？		
テーマ群	c)公共経済 g)その他		
メンバー	池田桜 小野大翔 野口みなみ 東浦拓也 山本萌菜		
研究計画内容	<p>【研究背景・目的】</p> <p>日本の動物殺処分における主な動物として、犬・猫が挙げられ、殺処分数は減少傾向にあるが未だ約3万匹が殺処分されているのが現状である。2019年における殺処分された犬・猫の内訳として、犬が約5500匹であるのに対し、猫は約2万7000匹であり、猫の殺処分数は犬に比べて、約5倍も多くなっている。</p> <p>そこで、本研究では、犬も猫も殺処分数は減少傾向にあるが、より殺処分数が多くなっている「猫」に着目し、殺処分数を現状よりもさらに減少させる政策を考えていく。</p> <p>【研究内容】</p> <p>本研究では、猫の殺処分数を現状よりもさらに減少させる事が目的である。そのためには、日本で殺処分されている猫の現状を把握し、どのような過程を経て殺処分されるのかについても示す。</p> <p>現在日本で行われている殺処分数減少への取り組み等について明らかにしていく。また、日本だけでなく、殺処分「0」を達成したドイツなどの世界についても着目していき、どのような政策が行われているのか、といった具体的な事例についても調べる。そして、日本ではどの政策がより効果的なのか研究していく。</p> <p>このように猫の殺処分数減少について多角的に現状を把握し、現状よりもさらに殺処分数を減少させる政策を打ち出していく。</p> <p>【期待される成果等】</p> <p>日本の猫の殺処分数は年々減少傾向にあり、日本における猫の殺処分数減少への取り組みの効果が表れているという事が分かる。しかしながら、年間で約2万7000匹という少なくない数の猫が殺処分されているのが現状である。</p> <p>本研究での政策を打ち出すことにより、猫の殺処分数をより減少させることができ、殺されてしまう運命にあった猫の命を少しでも多く救うことができるという事を明らかにする。</p> <p>【参考とする先行研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・三井香奈・加隈良枝(2017)「猫の個体群動物と生態」 帝京科学大学大学院理工学研究科アニマルサイエンス専攻 (URL : https://tust.repo.nii.ac.jp) 閲覧日 2021年10月20日・環境省「動物愛護管理行政の最近の動向について」 (URL : https://www.env.go.jp) 閲覧日 2021年10月21日		